

国内の COVID-19 パンデミック後期に職業感染した看護師が抱いた思いと職場復帰の経験

所属：看護学科

職位・氏名：准教授 新改 法子

I. 研究の背景

新型コロナウイルス（以下、COVID-19）の流行中、国内の医療機関・福祉施設等では想定をはるかに超えるクラスターが発生し、多くの医療従事者が感染しました。海外の報告では、COVID-19 に感染した医療従事者は、身体的・心理的ダメージを受けていたことや、COVID-19 の後遺症で健康生活の質が低下していることが報告されていました。

そこで今回、勤務していた病院で COVID-19 に職業感染した看護師の支援を目的として、2022 年 8 月～2023 年 2 月に、職業感染した看護師 11 名へインタビューを実施し、感染する前・感染判明時・療養中・職場復帰前後に抱いた思いを明らかにしました。

【用語説明】

- (* 1) パンデミック後期：国内で COVID-19 感染症患者が急増した第 6～7 波である 2022 年 1 月～同年 9 月の期間
- (* 2) 職業感染：勤務していた病院で COVID-19 に感染した看護師
- (* 3) 思い (Feelings)：COVID-19 に職業感染した看護師が感染する前から職場復帰後に抱いた主観的な心の状態

II. 研究の結果

インタビューの結果、感染する前から職場復帰後に抱いた思いの関連性（下図参照）が分かりました。

まず、職業感染を経験した看護師は、「周囲への申し訳なさや自責の念」や「責められている気持ち」といったネガティブな思いを抱いていました。また、「病院の不十分な感染対策」への不満や、「復帰への体調の不安」といった辛さが原因で、仕事への復帰をためらう思いもありました。この「ためらい」は、「復帰後働く中での不満」や、「今の職場で働きたくない」といったネガティブな思いにもつながっていました。

一方で、隔離・療養中の管理者や同僚からの温かい支援により「感染中のサポートへの感謝」を募らせた看護師もいました。その思いは、復帰した後に周囲から温かく迎えられたことや、職場の環境が改善していたことなどで、「職場復帰への決意」や「職場や同僚への感謝」として、再び働く意欲の支えとなっていました。そして、自分自身の「感染」を今後の看護に活かせると感じたり、看護観を再確認できたことで、成長と達成感といった「感染の体験をプラスに変換」できたプロセスも見えてきました。

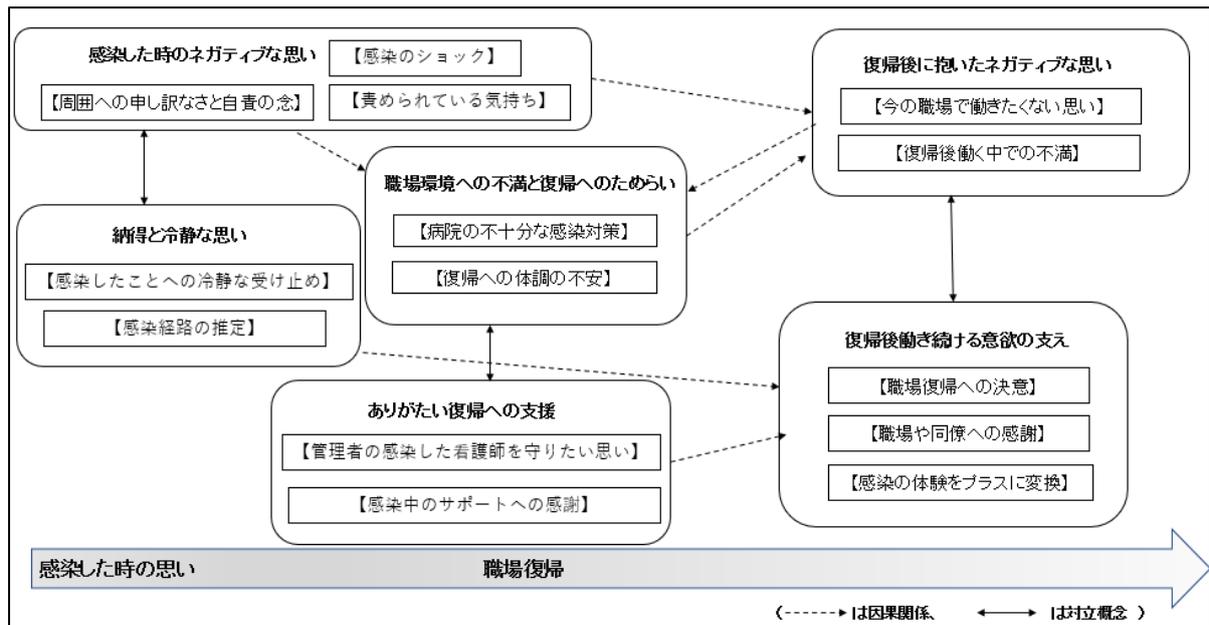


図 感染した時から職場復帰後に抱いた思いの関連図

Ⅲ. 今後の展開

今後は、Web 全国調査を通じて、国内で職業感染した看護師の実態を広範囲に把握していきます。そして、これらの知見を活かし、職業感染した看護師の職場復帰と安全な就労継続に向けた支援プログラムの開発を目指します。今後、新興感染症が発生した時の看護職の職業感染予防や初期対応の強化、まん延時の安全な就労継続に繋げていきたいと考えています。

Ⅲ. 論文情報

雑誌名 : Nursing & Health Sciences

論文タイトル : Feelings and Experiences of Return-to-work among Nurses Occupationally Infected with COVID-19 During the Late Phase of the Pandemic in Japan

著者 : 新改法子 1)、大西香代子 2)、矢野久子 3)

- 1) 青森県立保健大学
- 2) 名古屋市立大学大学院
- 3) 愛知医科大学大学院

DOI : <https://doi.org/10.1111/nhs.70307>

Key Words ①新型コロナウイルス感染症 ②パンデミック後期 ③職業感染 ④看護師
⑤思い ⑥インタビュー ⑦質的研究

Ⅳ. お問い合わせ先

青森県立保健大学 キャリア開発・研究推進課 事務担当

E-Mail : kyariken@ms.auhw.ac.jp TEL : 017-765-408